

ワークショップにおける参加主体の意識変容プロセスに関する研究

ランドブレイン（株）	正会員	南 詠子 ¹⁾
大阪大学工学部	正会員	盛岡 通 ²⁾
同 上	正会員	藤田 壮 ²⁾
大阪大学大学院	学生員	佐々木 暁一 ²⁾

1. はじめに

地域で環境づくりを積極的に行っていくための一手法として「環境づくりワークショップ」が注目されている。環境づくりワークショップは、①環境に対する価値観が多様であり、②環境や他者の価値観についての学びの場であることに特徴がある。本研究では、環境づくりワークショップの一つとしての「野鳥の森づくりワークショップ」に着目し、ワークショップを通じて市民の意識がどのように変容していったかをテキスト分析により検証する。

2. 野鳥の森づくりワークショップの概要

(1) 経緯

箕面野鳥の森づくりワークショップは、箕面市緑のマスタープランの計画策定に伴い「市民の森」の一部として野鳥の森を整備するにあたって、市民側からの意見案をまとめ、箕面市の市制40周年事業として計画案を策定することを目的として開催された。

(2) 期間および参加者・スタッフの構成

「野鳥の森づくりワークショップ」は、平成8年6月9日から11月2日まで全6回にわたって行われた。ワークショップは、箕面市が主催し、一般市民、ファシリテーター、アドバイザー、コンサルタントの参加により運営された。市民の参加は、箕面市の広報紙により募集された。

(3) プロセスの特性

「野鳥の森づくりワークショップ」のフローを図1に示す。本ワークショップにおいては、①多様なワークショップテクニックの利用、②生態学の専門家によるアドバイス、③現地での学習会、④複数の合意案の策定、等のプロセスを通じて参加者が意見形成しやすいように工夫されている。

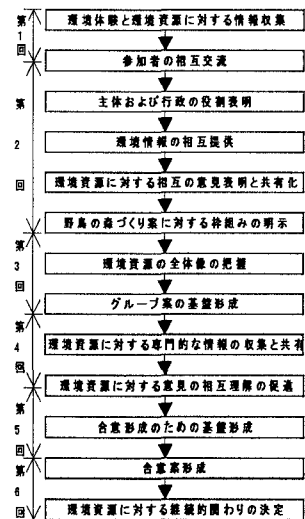


図1 野鳥の森づくりワークショップフロー図

3. 意識変化プロセスの分析

(1) 意識変化フロー

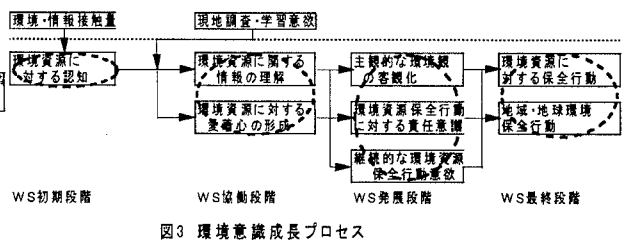
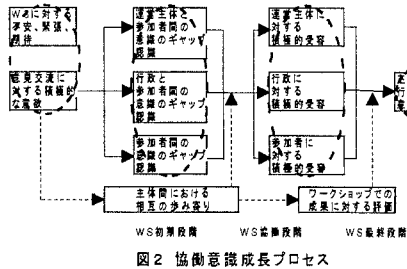
状況設定が適切で、よく工夫されたワークショップは、参加者主体間の発言・応答・協働・互助をうまくひきだし、主体の意識変容をもたらす。「野鳥の森づくりワークショップ」においても、参加者の意識が変容していくのではないかと仮説をたてた。そこで、参加者の環境意識成長プロセスと協働意識成長プロセスに着目し、それぞれ次のように定義した。環境意識成長プロセス

キーワード：ワークショップ、意識

1) 〒541 大阪市中央区淡路3-1-7 TEL. 06-201-2300

2) 〒565 吹田市山田丘2-1 大阪大学工学部環境工学科 TEL. 06-879-7677

とは、環境情報の収集を通じ環境資源と継続的に関わっていかうとする意識が成長していくプロセスのことをいう。一方、協働意識成長プロセスとは、他の参加者との協働作業を通じて他者の価値観を理解し、皆で連携して環境資源保全行動を行っていくような意識が成長するプロセスのことをいう。図2、図3にそれぞれのプロセスを示す。



（2）テキスト分析の概要

（1）で設定した協働意識成長プロセスと環境意識成長プロセスのモデルを検証するために、「野鳥の森づくりワークショップ」で毎回参加者が記入した「ふりかえりシート」を用いてテキスト分析を行うことにした。テキスト分析の方法としては、モデルの各項目に複数のキーワードを設定し、それらの単語を含むセンテンスを抽出する方法を用いた。

（3）意識変化の分析

テキスト分析の結果を図4と図5に示す。協働意識成長プロセスにおいては、回を経るごとに「主体的・創造的行動に対する意欲」に関する意見が増加している。環境意識成長プロセスにおいては、「環境情報の理解」の項目は、「環境資源に対する愛着心の形成」や「主観的な環境観の客観化」の項目の後に形成されたということが、図より考察されるため、環境意識成長プロセスの修正を行う必要がある。

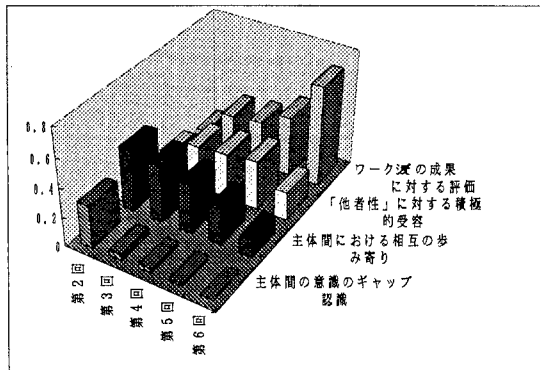


図4 協働意識の成長プロセス

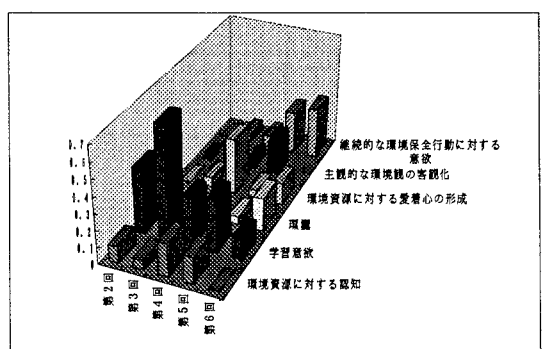


図5 環境意識の成長プロセス

4. 結論および今後の課題

本研究を通じて、①環境づくりを主眼としたワークショップにおける様々な手法は参加者の意識変容に影響を与える、②協働意識成長プロセスと環境意識成長プロセスは相互に影響を及ぼし、最終的に協働作業を通じ環境資源保全行動意欲の形成を導く、の二点が明らかとなった。今後の課題としては、①独自のアンケートを設計し意識変容を精緻に汲み取ること、②協働意識と環境意識との相互関係の検証が挙げられる。